

川上將史

アイヌ口承文芸継承者
かわかみ まさし



Masashi Kawakami



北海道遺産びと

カヤの匂い、 囲炉裏で木の燃える匂い。 僕のどこかが、それを覚えている。

アイヌ口承文芸

「発表を終えた時点で正直なところ、だめだろうなと思っていました。完全にあきらめていました。また来年がんばって出場しよう」と青年はすっかり弱気になっていた。2003年、第7回アイヌ語弁論大会イタカンローの口承文芸部門で最優秀賞を受賞した川上將史氏。彼が同大会に初めて挑戦し、その発表を終えた直後の自身の感想だ。

「つい感情がたかぶってしまい声をうまくコントロールすることができなかったんです。ところどころ声がうわずってしまつて。審査員のほうへ目をやると、何かササッとチエツクを入れているのが見え、ああ減点されちゃったなあ」と、ガツクリ肩を落として語る川上氏は、臨場感たっぷりにその場のシーンを再現してくれた。

「でも！イケたんですよ。賞が発表されて、最優秀賞でしょう、もうその場でウワオー！！って飛び跳ねましたよ。指導をしてくれた貝沢美和子先生に抱きついて『先生、よかったー、先生！』って。みんなで大騒ぎの大喜び。『すごいなー、オマエ』って言われて。ほんと本当に感動しました、あのときは」

感動の再現ドラマ